

令和5年度第1回古賀市総合政策検証会議 事前質問及び回答

令和5年8月28日

資料	ページ	質問	回答
資料 2	1	<p>基本事業：妊娠・出産・乳幼児期支援事業 事務事業：2. 産前・産後支援事業</p> <p>「訪問拒否する家庭に対しての介入の方法を工夫していく必要もあります」とのことですが、具体的な対応策があれば、教えていただけると幸いです。たとえば、訪問拒否をするご家庭は、既に精神的な疾患を抱えている可能性も想定されますが、精神科医との連携などの枠組みがあるのでしょうか。</p>	<p>基本的には、乳児家庭全戸訪問事業により、ほとんどの新生児が生まれた家庭へ訪問ができていますが、まれに訪問を拒否されるケースもあります。拒否される原因として、ご指摘のように精神的な疾患を抱えている場合もあり、こうした妊産婦に関しては、臨床心理士・公認心理師の資格を持った職員が訪問や面談に同行し、心理的に寄り添うことで支援につなげています。必要に応じ、精神科や心療内科を紹介することもあります。</p> <p>妊産婦が抱える不安については、さまざまなケースがあり、今後ケースに応じた柔軟な対応を検討していくこととしています。</p>
資料 2	7	<p>基本事業：男女共同参画推進事業 事務事業：1. 男女共同参画推進事業</p> <p>「男は仕事、女は家庭を守る」という固定的性別役割分担意識の考え方に「反対」と回答した人の割合が、53%」とありますが、個人的には非常に低い水準だと感じました。調査対象者など、こういった数値の原因があれば、教えていただけると幸いです。原因が特定できれば、改善策も実効的なものになるかと思えます。</p>	<p>調査については市内にお住まいの18才以上の男女2,000人を対象としました。</p> <p>「男は仕事、女は家庭を守る」という固定的性別役割分担意識の考え方については、若年層（20～30代）ほど反対と回答した人の割合が高い結果がでています。しかし、働く場においては、長時間勤務など男性中心の働き方を前提とする労働慣行が残っていることや、政策・方針決定過程への女性参画の割合は依然として低く、女性がその能力を発揮しているとは言えない状況にあると考えています。</p>
資料 2		<p>各ページの「■成果指標」の表に、目標値を入れてください。</p> <p>現状では、目指す方向性（矢印）のみ示されており、分かりにくいです。</p> <p>目標値に対して、各年度の実績値を検証できるようにしてください。</p>	<p>今回の資料の記載方法としてはアクションプランに沿った記載としております。</p> <p>第5次総合計画の基本構想及びアクションプランからは明確な目標値は設定していません。</p> <p>各年度の実績値の推移から「めざす方向性」に向けて今の取組がどうか、今後の方向性に関してもこのままで良いのか、違ったアプローチがあるのではないかなどご意見いただきたいと思えます。</p>